

学校教育課だより

かけはし



学校教育課だより
「かけはし」
【第3号】
令和2年
6月22日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

未曾有を楽しむ

教育部長

田代 学



教育委員会に異動してきてから、早一年が過ぎました。当初から事故やら事件が相次いでおこり、自分が災いと呼ばれ込んでしまったのでは自責の念に駆られたこともありました。その中でも今年の初めから始まった新型コロナウイルス関連騒動は他とは一線を画した大事件です。

「いまだかつてあらず」は「未曾有」の訓読だそうです。この二か月ほど、目に耳にしない日はありません。それほど、新型コロナウイルス感染症に関しては異例づくめです。

まったく今までの常識が通用しません。何をすることも経験が全く役に立たないのですから誰一人として正解がわかりません。例えて言えば、出題者自身にも正答がわからない試験問題を解いているようなものです。

特に休校の判断に関しては「命より大切なものはない。」と誰もが納得する解答例の解説ができるのに対し、学校の再開にあたっては、休校を継続してもらいたい人と再開してもらいたい人の両方に対し解説を用意しなければなりません。

せんで非常に困難です。頭を悩ませてばかりいても病気になるてしまいますので、ここで発想を転換して不謹慎かもしれませんが、気持ちの持ちようでこの状況を逆に楽しんでしまおうというのも一考です。そう思つて取り組めば、何事も苦しいことが楽しくなるし、間違ひなく苦しさが終われば楽しいことが待っています。

私は次の事象を予想して楽しんでいきます。新型コロナウイルスが中国武漢で流行を始めたころにマスクが足りなくなるという予想をしたらそのとおりになり、次は消毒薬、次はトイレトペーパー、次はキッチンペーパーと大衆が考えることなど皆同じで予想も簡単でした。五月の連休明けにはマスク価格が暴落すると予想したところ、全くその

とおりとなつて、これには笑つてしまいました。

実際、仕事を進める上で先を読む力は必要です。頭をフル回転させ、今後起きる事象を想像し次のことに備えられる能力を鍛えようとの意味合いも多少はあります。

今年度、入学式は辛うじて行ったものの、休校、休校の延長、さらなる延長と先生方も子供たちもそして保護者の皆さんも未曾有のことで大変さや御苦労は筆舌に尽くしがたかつたと思います。

今だからこそ、今年だからこそ、皆で力を合わせ、頭をフル回転させ、未来を創造するために未来を想像しようではありませんか。夜明けのない夜はありません。

最後になりますが、くれぐれも、先生方にお願ひしたいのは、どこかの総理大臣のように「未曾有」を「みぞうゆう」などと読んでしまいますと、それこそ「未曾有」になつてしまいますので御注意ください(笑)。

頑張ります、一年生
〜登校日の「1」マイル〜

臨時休業中の登校日に、指導主事が各校を訪問させていただき、子供たちの様子を見させていただきました。印野小学校の昇降口で登校の様子を見ていると、靴箱で靴のかかとをきちつと揃えている子供がいました。続けて登校してきた子も、みんなしつかりとかかとを揃えていました。

また、御殿場小学校で、一年生が手洗いをしている場面に遭遇しました。すると、みんな指の間や手の甲まで、本当に丁寧に手洗いをしていました。きつと、小中学校で一番手洗いが上手なのは、新一年生なのではないでしょうか。幼稚園・保育園で教わってきたことが、特別なことではなく日常として身に付いていることに感心させられました。「三つ子の魂百まで」と言いますが、幼少期の躾や習慣化の大事さを実感すると共に、幼稚園・保育園の先生方の指導に感謝する一場面でした。

教育指導センターから

風薫る

人との距離間はあっても

こころの密で、安心・意欲

教育指導センター

芹澤 ゆき子

子供の歓声が戻ってきた

学校が再開されました。

近所のおばあさんが、登校する子供たちをいつまでも眺めている姿が印象的でした。少し腰が曲がっている方ですが、その時は、ピンとしていくようにもみえました。

「新しい生活様式」が示され、学校でも縛りのあるなか、先生方が一丸となって対策を取ってくださっていることに感謝しております。

六月五日、原里小学校一年生の参観をしました。子供たちは第一週の終りでぐったりかなと思いきや、学校で学べるという嬉しさにあふれていました。三十二人学級です。教室の可動式の壁を開けて人との距離を保っていました。

スタートカリキュラムでは、この週は「担任やクラスの友達とかかわり、安心して諸活動に参加できる」という目標のもと、経験のある二人組のリズム遊びやアプローチャリキュラム経験を踏まえた、意図的なグループ活動を行う予定でした。

子供側立った発想や

声掛けの工夫

朝の会での健康チェックで個々への声掛け、生活の中で分からないことの確認など、子供の思いを探ります。

国語の授業は、休業中のひらがなの確認です。「みんなよく頑張りましたね。先生はびつくりしたよ。」子供たちは自信気に顔を上げます。「と」を黒板に書き、「と」のつく人前に。みんなで名前を呼びます。どの顔も嬉しそう。名刺交換とはまた違う楽しさが感じられました。

先生のことばの端々にも、温かさや工夫が見られました。「聞こえたかな。聞こえた人は先生の真似して。」(注目・確認)廊下を走っている人に

「歩いているよね。」(注意ではなく気付けさせる)子供の「後で遊べるかな。」に「遊べるよいいね。」(気持ちの共有)。子供たちの顔も穏やかです。

スタートカリキュラムの成果が、学びの雰囲気を作る

スタートカリキュラムの根幹には、個々の不安を解消する、子供に寄り添いつつ、自ら学ぶ力を育てることがあります。

子供の様子を見ていると、先生方の手立ては、アプローチャとスタートカリキュラムを学んだことと、教師としての経験がうまく重なっていることが見て取れました。

十時頃には疲れが見える子もいましたが、先生が緩急をつけた言葉掛けをしたり、友達と交流する時間を設けたりすることで、授業に集中する子供たちの姿が見られました。

こうした、先生方の働き掛けを継続していただくことで、子供たちは徐々に学校の過ごし方や学習の仕方を学んでいくのだと、イメージすることができました。

幼稚園でも、子供の学びを

学校や家庭とつなぐために、アプローチャカリキュラムの中で、発達の原動力としての遊び・学習の源としての遊び・心の癒しとしての遊びを育んでいけるような環境を、常に再構築して行くことを目指して下さい。先生と子供の、メディアカルデイスタンスはあっても、心は密でした。

危機管理マニュアル

持続可能な取組に

学校再開にあたり、御殿場市では「新型コロナウイルス危機管理マニュアル」を作成しました。このところ、新たな感染者数は減少傾向にありますが、感染の第二波、第三波が来ることも予想されています。これ

からも社会全体が、長期間にわたり、この新たなウイルスと共に生きていかなければならないという認識に立ち、命を守る行動と児童の学びの保証の両立を図っていかねばなりません。

そこで、本マニュアルの基本方針を確認いたします。

①ウイルスを絶対に校内に入れない。

登校時、校舎に入る前、教室入室時の対応を。

②学校内では、ウイルスを拡散させない。在校時、三密を防ぎ感染機会の減少を。

③ウイルスを学校から家庭に持ち込まない。下校時、消毒液にて手指の消毒を。

マニュアル作成にあたり、御殿場市医師会で内容を確認していただき、御助言をいただきました。

そこで、強く念押しされたことは、とにかく活動の前後に手洗いうがい、消毒を徹底すること、そしてマスクを確実にすることです。

手指を清潔にし、口・鼻・目を触らないようにすることで、感染の機会を減らすことができるということです。

子供の登校前・下校後に、消毒作業を丁寧に実施していただいていると思います。しかし、消毒の範囲にも、先生方の労力にも限界があります。物の消毒ももちろん大切ですが、まず私たち一人一人ができる感染防止の行動様式を日常化し、持続可能な取組としていくことが大切であると考

えます。子供たちと共に意識と行動様式を見つめ直し、無理なく実践していきましょう。